

現地に立ち、フクシマの現実を学びました！

第9回グリーンジョブ研修フクシマ開催！



「夜の森 桜祭り2026」でお忙しい中、遠藤代表からお話をいただきました



富岡町にある 東日本大震災慰霊之碑

この慰霊碑は「全町民が避難を強いられた未曾有の原発事故は、地域の営みや人と人とのつながりを破壊し、行方不明者の救助・捜索を十分にできなかった後悔を生み、長い避難生活で心身ともに疲弊した人の命を奪った」と、福島第一原子力発電所の事故について言及されており、無念さが感じ取れると同時に将来に向けた強い思いが記されています。



福島水素エネルギー研究フィールド

「福島イノベーションコースト構想」のもと進められています。「新しい社会のモデルづくり」「大企業が利益が潤う仕組み」となっており、果たして地元が望む本当の復興なのか？疑問です。

4月5日、グリーンジョブ研修フクシマを開催しました。今回の研修では、従来の行程を一部変更し、被災から15年経過した今日、地域から「真の復興」を進め、「本物に触れる場」をつくりだす観点を入れ開催しました。

特に、東日本大震災によって地震・津波・原発事故から「地域のまちづくり」として奮闘している「とみおかワイナリー」の遠藤代表から「ワインを通じた今後100年先の地域づくり」や「地域が抱える課題解決」についてお話をいただきました。

意見交換では「沖縄同様、原発立地地域として構造的差別が行われている」「真実を見ること、現地に立つ重要性を改めて実感した」「自然災害だけではなく、原発災害という人為的災害が加わっているから15年経っても景色が変わっていない」こと、また、遠藤代表のお話を聞いて「地元を守る決意、震災を風化させたくない強い決意が伝わってきた」「話された夢や希望を叶えるために、自分でできることをやっていきたい」など、活発な議論が行われました。

労連は、震災から15年経った今日、被災地のみなさんと共に「真の復興」を目指していきます！